

令和4年度 第2回 太田市美術館・図書館運営委員会 摘録

◆日時 令和5年2月28日（火）午後1時30分～午後3時10分

◆会場 太田市美術館・図書館 3階視聴覚ホール

◆出席者

【委員】 尾崎委員長、川上委員、杉浦委員、染谷委員、花井委員、森委員（欠席：鳥塚委員）

【事務局】 高橋館長、小林館長補佐（管理係長）、瀬古係長（学芸係長）、岡村係長代理、星野係長代理、山田主任学芸員、矢ヶ崎主任学芸員

◆議題 ①令和4年度事業報告（中間）について
②令和5年度事業計画について
③その他

◆配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 委員名簿
- ・ （資料1）令和4年度太田市美術館・図書館事業報告（中間）
- ・ （別冊1）「津田直+原摩利彦 トライノアシオトー海の波は石となり、丘に眠る」事業報告
- ・ （別冊2）「2022 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」事業報告書
- ・ （別冊3）令和4年度図書館イベント報告書
- ・ （別紙）「本でつながるイベント vol.7 世界のバリアフリー児童図書展」事業報告
- ・ （資料2）令和5年度太田市美術館・図書館事業計画（案）
- ・ （資料3）令和5年度美術館・図書館事業カレンダー（案）

◆会議の内容

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

議題① 令和4年度事業報告（中間）について

事務局が資料1、別冊1、別冊2、別冊3、別紙に基づき説明を行った。
※別冊2の補足として、赤ちゃんワークショップ映像を上映

（委員）

赤ちゃんを楽しむ鑑賞会の定員は4組で、定員になったから募集を締め切ったのか。
また、赤ちゃんを楽しむという企画は毎回実施しているのか。

（事務局）

定員は5組で当日体調不良により1組欠席となった。昨年も今年度も申込数が定員を超えなかった。
去年は6組受け入れたが、当日1組来られなくなり5組となった。

（委員）

太田市美術館・図書館では去年のボローニャ展から赤ちゃんを楽しむ鑑賞会を実施している。私はこの研究を始めて9年になる。全国各地でこのワークショップをレクチャーしながら実施していて、実

施後は、各館にお任せしていくという感じで広げている。

(委員)

簡単に、どこがポイントになるのか。

(委員)

赤ちゃん、保護者、まわりの鑑賞者のいずれにもアプローチするプログラムになっている。本当は、赤ちゃんが観ているときに、どういう脳波の動きがあるか測定したいと思っているが、動かしながらアイトラッキングや脳波をとるのは難しい。

映像をご覧いただいたように体の反応、動かし方が普段と比べて明らかに違うところがある。普段読んでいる絵本に似た絵を見ると反応する。また、美術館の作品だけでなく、照明、床、人など、すべてに反応する。そういう意味では、いろんな刺激を受ける育ちの場としての美術館や図書館になるのではないか。

親御さんのコメントにあるように、自分の子がこんな反応すると思わなかった、など、親御さんもおうちでは見せない反応を再発見することができると思う。

入場前に看板を置いて赤ちゃん鑑賞会をやっていることを伝えたり、受付や看視の方が温かく接していくと周りのお客さんも温かくなって、太田の美術館はやさしい施設というイメージ戦略にもつながる。このプログラムが一つの広報になり、お客さんへのアピールができるのではないか。

去年は太田出身の学生がうちの学科にいて、彼女がサポートしたが、今年はサポートスタッフさんが参加されたのがよかったと思う。いろいろご経験をされている地元の方が関わるといいと思う。

(委員)

図書館のほうは赤ちゃんワークショップの趣旨をくみ取って、紹介できるような本の展示をしたか。

ポローニャ関連だけでなく、たとえば子育てに関する本とか展示されるといいのでは。

ポローニャ展で団体が来ていない。板橋区立中央図書館にはポローニャ絵本館が常設であり、そこへ行くと絵本を調べに来るいろんな人が滞在していて、結構人気がある。それくらい人気のものが太田に来ているのだからもっと人が入ってもいいと思うし、団体で来ていないというのが、もう少し宣伝の可能性を見出せるのでは。

図書購入費がかなり減っている。さっきの説明だと配架スペースの問題もあると思うが、理由はそれだけか。創造的太田人という理念のもとに私たちは開館当初に選書委員として、選書を行った。選書したもののというのは流通にのらないものや、結構珍しい本もあり、高価のものも多い。予算が減っていくとなると貴重な本が購入できないということになる。そういうものをきちんとコレクションするのが、創造的太田人という理念の中の選書だと思う。もう少し選書に対しての考え方をもう一度議論するのがいいのではないか。

(事務局)

図書の購入については、収納できるスペースが限界にきているということで私も納得してしまっただけで、本来のやるべきことがあるところをご意見いただいた。そのとおりでと思うので、考えさせていただく。

それから、団体はゼロになっているが、学生の団体は来ているけども、無料なので、数字に計上されていない。ただ、ポローニャ展を知っている方は、遠方からでも見に来るのではという話でしたので、外へ向けての発信がちょっと足りなかったかもしれない。反省点として、受け止めさせていただく。

(委員)

昨年、教育委員会と連携して、ポローニャ展を市内の学校の子どもたちになぜ見せられないのかという発言をしたが、やっぱり、開催時期があまりよくないと思う。たぶんいくつか巡回していて、いろんな事情で年末年始を挟んだ期間になってしまっているのだと思うが、できればもう少し子どもたちが参加しやすい時期にバスを使って展覧会を見てもらえれば、非常にいいつながりができるのではないかと思う。

(委員)

ポローニャ展は来年はやられないのではないか。

(事務局)

4年で他の展覧会に切り替えていこうということで、人は来ていただいているのですけども、違う展覧会もやっていきたい。

(委員)

例えば、ポローニャがなくなっても、ここの特徴としてアンデルセン賞をとった本がたくさんある。原画と言えなくてもアンデルセンをテーマにして、美術と図書で企画できるのではないか。目玉になるポローニャがなくなるのだったら、アンデルセンに力をいれればいいのではないか。

(委員)

ちなみにJBBYの障害を持った方たちのための図書展はまたやるのか。

(事務局)

JBBYのイベントで世界のバリアフリー児童図書展と世界の子どもの本展というのがあり、各年で交互にやっていくという方針になっている。この後、事業報告で報告させていただくが、来年度はバリアフリーではなくて、子どもの本展をやる予定になっている。

(委員)

バリアフリーの児童図書展で展示した本はすべてここの所蔵品なのか。

(事務局)

JBBYのほうで選定をされたものが、バリアフリーの場合は40冊なんですけども、世界から集めたものを巡回展として、借りて展示している。もちろん、その中で購入できるものは当館でも購入して一緒に展示したりもするが、特にバリアフリーは、立体的なものとか1冊しかないようなものもあるので、買えるものは少ない。

(委員)

関連イベントをいくつかやっているが、これはセットになっているのか。オリジナルでやっているのか。

(事務局)

関連イベントについては当館のほうでスタッフと相談してやっている。

(委員)

今年度の視察・団体者は随分増えているが、増えた理由はあるか。

(事務局)

コロナ禍で視察控えがあった。その前を見るともっと多いと思う。

(委員)

前も話したが、太田市のバスがあるので、校長会で説明して、学校長や図工美術の先生が子どもたちに鑑賞させたいという話になれば来ると思う。逆に言うと、それがなかったら来れない子どもがいる。保護者が連れてくるのはあまり期待できない。

(事務局)

今回のポローニャ展については、校長会に行って、ぜひ見学を考えてくださいという話をした。ただ、行ったのが12月の校長会で話をしたので、タイミング的に遅かった感じている。

(委員)

どこの学校も今、年間計画を立てている。だから、来年度こういう展覧会があるので、子どもたちの鑑賞いかげんかということ、会期と低・高学年向けかを言っていただけであれば可能性としては大きくなる。

(委員)

今日の会議が2月末で、この資料ができた段階で校長会に行く、というルーティンに組み込んでしまったらいいのではないかと思う。単にタイミングだけだと思う。

(委員)

ここには、建築や映像とか他のところにはない資料がたくさんある。令和4年度に本でつながるイベントを8回やっているが、ここはもうひと伸びできるのではないかなと思っている。読み聞かせをしたりとか、おはなし会をやったりとか、そうじゃなくて、さっきも言ったように資料と一緒に建築家を呼んで来るとか、映像の本もたくさんあるから、例えばYOUTUBERを呼んだり、映画を撮っている監督に俳優をどう動かすかという人のマネジメントにつながるような講演会をしてもらうとか。そういう人とビジネスと映像関係をマッチングさせてみて、ここの図書とつないでいくとか、美術館・図書館だからやれるような講演会とか、本でつながるイベントがワンランク、ツーランクアップできるような企画になっていくといいかなと思った。

(委員)

クリスマスの飾り付けが少なかったという意見があったと言われたが、飾り付けは誰がやっているのか。

(事務局)

スタッフが飾り付けている。

(委員)

そこはもっと市民も巻き込んだほうがいいのではないか。図書館は市民が使う市民のものだったので、市民がどう使うかというところが結構重要になる。ワークショップで飾り付けをすとか、運営ボランティアにやってもらうとか、もっと、市民やボランティアの方が運営にかかわることができる創造的太田人に近づけていけると思う。すごく期待している。

議題② 令和5年度事業計画について

事務局が資料2、資料3に基づき説明を行った。

(委員)

1番目の展覧会企画で説明された中村節也展は、太田市美術館・図書館とはちょっとニュアンス、毛色が違う展覧会で、オーソドックスな絵画展になっていると思う。邑楽町に生まれて、館林、前橋、高崎に拠点を変えた人なので、太田で中村節也さんがどれくらい知られているのか疑問ではあるが、太田市所蔵の収蔵品がたくさんあるので、企画されたと聞いている。風景、人物、静物などいわゆるオーソドックスな画題なので、誰が見てもとっつき易いと思う。

(委員)

こういう展覧会で実は乳児のプログラムをやられたらいいなと思う。過去2回やってきて、研修もしているのですが、気負わないで、本当にぱっというかたちでやられたらいいと思う。負担にならないようにするというのがポイントで、そんなに準備とかしないつもりで、2時間くらいで、チラシに載せて受付して。本当に負担はかけないで行ってほしい。

(委員)

美術館・図書館は赤ちゃんが行っちゃいけないみたいなことを言われる方がいるが、そうじゃないところを覆せるような気がしてすごくいい。また大きくなってからもどんどん来てもらえる。

(委員)

ここのミッションの創造的太田人を育てるということが続けて行ってほしい。あかちゃんから参加できるプログラムというのは実は先進的で、お金がかからない。

(委員)

私も以前学習文化センターで開催された中村節也さんの展覧会を見て、太田でこんなに収蔵しているのだと感じた。美術館・図書館で中村さんの展覧会というのは、ちょっと違和感を感じたが、小さい収蔵作品だけでなく、ぜひメインになるものをいくつかお借りして、ここにもたくさんあるので、いい展覧会にしてもらえればと思う。たぶん今までと違った市内の人たちも、初めてこちらの美術館に来る人も多いと思う。

(事務局)

近隣施設に調査協力を依頼して、邑楽町以外は染谷先生にお手伝いいただき、未刊行資料も見せていただいている。充実した内容の展覧会にしていきたい。

議題③ その他

(委員)

美術館・図書館を設計した平田さんが本当にたくさんの賞やコンペを取られていて、全国でなくて、世界で名が知られるようになっている。また、平田さんと呼んで話ができるような機会が持てるとよいのでは。建築家は、建ててからもお付き合いは続くので、そこらへんは懇意にしておいたほうがいいのではないか。

4. 閉会